

# 現代文学を探究するコース

## 井上ひさし作品を読む

講師 朝日新聞記者 山口宏子

長年にわたり、朝日新聞で劇評や文化欄を担当し、井上ひさしと交流のあった講師が、生前の井上ひさしとの思い出も交えながら、井上戯曲の魅力を読み解きます。

締切 9/7 必着

日程 9/30・11/11・11/25・12/16・1/20

各日曜日・全5回

時間 13:30～15:30

定員 50人

受講料 1回500円

テキスト 『表裏源内蛙合戦』『道元の冒険』『日の浦姫物語』『雪やこんこん』などを取り上げる予定です(テキストについては、受講者に個別にお知らせします)。



山口 宏子(やまぐち ひろこ)

1960年生まれ。83年朝日新聞社に入社。東京本社学芸部(現・文化くらし報道部)で演劇を中心に取材、批評などを執筆してきた。西部本社(福岡)、大阪本社にも勤務。編集委員、論説委員などを経て、現在は報道局の記者。武蔵野美術大学非常勤講師。2003～04年、早稲田大学演劇博物館客員研究員。09～10年、NHK-B S 2(現・B S プレミアム)の「ミッドナイトステージ館 演劇はいま」の司会を担当。共著に『蜷川幸雄の仕事』(新潮社)。

# 仙台文学館 ゼミナール 2018

深い言葉の世界を追究し、  
知的刺激と発見をめざす「仙台文学館ゼミナール」。  
日々の暮らしのなかで文学や言葉に  
関心を持つ方々にむけて、  
成熟した読書と表現を究めるカリキュラムをお届けします。

### 近代文学を読み解くコース

- ・太宰治『人間失格』を読む
- ・相馬黒光『広瀬川の畔』を読む・歩く

### 現代文学を探究するコース

- ・井上ひさし作品を読む

### 日本の古典に親しむコース

- ・『万葉集』を味わう
- ・『源氏物語』を読む

### 表現をみがくコース

- ・朗読ワークショップ
- ・佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座
- ・俳句実作講座
- ・川柳実作講座

※会場はすべて仙台文学館講習室

バス利用の場合 ・宮城交通バス 仙台駅西口バスプール2～4、6番乗り場 仙台北・泉地区方面行(急行・北山トンネル経由を除く)

・市営バス 仙台駅西口バスプール6番乗り場 八乙女駅行

※いずれも「北根二丁目・文学館前」下車

地下鉄利用の場合 地下鉄南北線「台原駅」下車徒歩25分(台原森林公園内あかまつの道経由)

駐車場 40台(無料) 台数に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用下さい



Sendai Literature Museum  
仙台文学館  
〒981-0902 仙台市青葉区北根2-7-1  
TEL.022-271-3020 FAX.022-271-3044  
http://www.sendai-lit.jp/

※再生紙を使用しています。このチラシはリサイクルできます。

### 申込みについて

- ◆往復はがきに、住所、氏名、電話・ファックス番号(講座日変更などの連絡に必要)、希望する講座名を記入の上、仙台文学館にお送りください。はがき1枚につき、1人、1講座の申込みとします。複数講座に参加ご希望の方は、それぞれにお申込みください。
- ◆締切は必着で、各講座それぞれ違いますので、ご注意ください。
- ◆カリキュラムは、全回参加して1講座が終了するように組んでありますので、基本的に、各講座とも毎回ご参加ください。
- ◆申込みが定員を超える場合は抽選となります。なお余裕のある場合は、締切後も受け付けますので、お問合せ下さい。
- ◆返信は、締切後にお送りします。(先着順ではありません。)

### 申込先

仙台文学館  
〒981-0902  
仙台市青葉区北根2-7-1  
TEL.022-271-3020  
※いただいた個人情報はゼミナールに関するご連絡以外には使用しません。

近代文学を読み解くコース

太宰治『人間失格』を読む 締切 9/7 必着

講師 東北工業大学准教授 高橋 秀太郎
「彼は人間“失格”？それとも人間“合格”？「神様みたいないい子」？
『人間失格』における太宰の問いとその問いが読者をとらえる仕組みを丁寧に解説します。近年公開された太宰自筆の原稿も参照しながら、今なお読者を獲得し続ける(人間失格)像をつくりあげた、その手腕に迫ります。
日程 10/7・10/28・11/4・11/11・11/18 各日曜日・全5回
時間 10:30～12:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 『人間失格 グッドバイ』(岩波文庫) ※他の本でもかまいません

高橋 秀太郎(たかはし しゅうたろう)
1974年生まれ。東北大学大学院文学研究科博士課程修了。現在、東北工業大学共通教育センター准教授。専門は太宰治を中心とする日本近代文学。特に太宰治と戦争というテーマについて研究している。最近、太宰が作品を掲載した『月刊東北』(河北新報社、昭和19年創刊)と『東北文学』(同、昭和21年創刊)の全体像についての調査もすすめている。

相馬黒光『広瀬川の畔』を読む・歩く 締切 8/7 必着

講師 フリーライター 西大立目 祥子
「新宿中村屋」の創業者であり文筆家でもあった相馬黒光は、仙台で過ごした少女時代の思い出を『広瀬川の畔』と題する随想に綴っています。そのなかから印象に残る部分をいくつか抜き出し、当時(明治期)の仙台の人々の暮らしやまちなみなどを紹介しながら読んでいきます。講座の4回目には、黒光の文章に記された風景をたどる「まち歩き」を実施します。
日程 講座 9/9(日)・9/23(日)・10/7(日) 13:30～15:00
まち歩き 10/21(日)、10/27(土) 13:00～15:00 (まち歩きは2グループに分かれ、21日か27日どちらかにご参加いただけます。詳細は1回目の講座でご説明します) 全4回
定員 40人
受講料 1回500円
テキスト 講義はこちらで用意したプリントに沿って進める予定です。

西大立目 祥子(にしおおたちめ しょうこ)
1956年仙台市生まれ。宮城県内を中心に、地域資源を活用した住民による地域づくりに関わる。仙台市内のまち歩きを続け、歴史的建造物の保存活動にも取り組んできた。仙台市の広瀬川ホームページにエッセイ「広瀬川の記憶」を執筆。東日本大震災後は仙台市市民文化事業団が発行した「RE:プロジェクト通信」のエッセイを担当。著書に『仙台とっておき散歩道』(無明舎出版)、『寄り道・道草 仙台まち歩き』(河北新報出版センター)など。

日本の古典に親しむコース

『万葉集』を味わう 締切 8/7 必着

講師 一関工業高等専門学校総合科学人文社会領域教授 津田 大樹
この講座では『万葉集』の舞台となった大和の山野が詠まれた歌を取り上げます。大和三山と呼ばれる香具山、耳成山、畝傍山や、吉野の山々など、古代大和の風土と、そこでくり広げられた歴史を織りながら『万葉集』の歌を読んでいきます。
日程 9/2・9/9・9/16・9/23・9/30 各日曜日・全5回
時間 10:30～12:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 講義はこちらで用意した資料に沿って進める予定です。お持ちの『万葉集』がある方はご持参下さい。毎回、次の講座で扱う予定の歌をお知らせします。

津田 大樹(つだ たいき)
1967年生まれ。東北大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。現在、一関工業高等専門学校人文社会系教授。『万葉集』を主とした古代文学を専門としている。歌の表現の成り立ちを古代の歴史や文化を踏まえながら明らかにすることを目指している。

『源氏物語』を読む 締切 8/7 必着

講師 東北大学大学院文学研究科准教授 横溝 博
紫式部の『源氏物語』は、今日世界文学として多くの読者に親しまれています。時空を超えて現代の私たちに深い感銘をもたらす『源氏物語』の魅力とは何でしょうか。本講座では、若き光源氏の時代を彩る空蟬・夕顔・葵の上・六条御息所・末摘花といった女性たちに光を当て、光源氏との愛惜に満ちた恋愛模様を読み解いていきます——紫の上の物語の序章として。
日程 9/1・9/15・9/29・11/3・11/17 各土曜日・全5回
時間 10:30～12:00
定員 80人
受講料 1回500円
テキスト 講義はこちらで用意したプリントに沿って進めますが、お手持ちの『源氏物語』がある方はご持参下さい。

横溝 博(よこみぞ ひろし)
1971年生まれ。専門は中古・中世の王朝物語及び日記文学。平安時代に作られた様々な文化的コンテンツが、後の時代に受容され再生産されていく動態に着目し、王朝文化の内包する豊かな感性の世界の可能性を、現在にも共有し押しひろげようと、日々古典文学作品の研究に努めている。近年では『新古今和歌集』の時代に作られた「中世王朝物語」と呼ばれる作品群に深い関心を寄せ、論考を発表している。

表現をみがくコース

朗読ワークショップ～物語を読む 締切 4/10 必着

講師 フリーアナウンサー・朗読家 渡辺 祥子
声で伝える喜びを味わえる「朗読」の世界。その世界に魅了される人が年々増えています。文学作品の朗読やナレーションで活躍中の講師のもと、日本語が持つ、特有の音の美しさを味わいながら、実践で練習します。
日程 4/22・4/29・5/13・6/3・6/10 各日曜日・全5回
時間 午前の部10:30～12:30 ※午前・午後とも同じ内容です。(どちらかを明記のうえご応募ください) 午後の部14:00～16:00
定員 午前・午後とも各30人
受講料 1回1,000円

渡辺 祥子(わたなべ しょうこ)
フリーアナウンサー・朗読家。ラジオパーソナリティや司会を務める傍ら、98年より朗読や語りと音楽を融合させた舞台公演をスタートさせる。様々な文学作品のレパートリーを持つ他、詩や童話など幅広いジャンルの朗読、さらに宮城ゆかりの人物や作品にスポットをあてたオリジナル作品の制作にも取り組む。2016年5月、詩画作家・星野富弘氏の作品を朗読したCD『Brilliant Life ～いのちの輝き～』(グローリア・アーツ)をリリース。

佐伯一麦エッセイ実作鑑賞講座 締切 4/10 必着

講師 作家 佐伯 一麦
作家・佐伯一麦が、書くことの貴重さを伝えるエッセイ実作鑑賞講座。今年度で3回目となる本講座では、各回事前に出されるテーマに応じて、受講生の方全員に作品を提出していただきます。講座内ではその中から何作品かを取り上げ、受講生の方の感想も求めつつ講師が講評を行い、書くことと読むこと両方のレベルアップを図ります。また、課題のテーマに合わせた文学作品の鑑賞も行います。実作に挑戦したい方のご参加をお待ちしております。
日程 5/6・7/1・9/2・12/9・2/3 各日曜日・全5回
時間 13:30～15:30
定員 30人
受講料 1,000円

佐伯 一麦(さえき かずみ)
1959年生まれ。高校卒業後、上京して週刊誌記者や電気工の勤めの傍ら作品を書く。数々の文学賞を受賞し、07年には『ノルゲ』(講談社)で野間文芸賞、14年『還れぬ家』(新潮社)で毎日芸術賞、『渡良瀬』(岩波書店)で伊藤整文学賞を受賞。自然の移り変わり、人間の日々の営みを「定点観測」した作品からは、あらゆる事象への深い洞察力と温かいまなざしが感じられる。

俳句実作講座 締切 4/10 必着

講師 「小熊座」主宰 高野 ムツオ
優れた俳句作品の鑑賞を通して、その伝統と基礎を学びながら、実際に作品を作っていきます。(俳句の定型をとおして、今までにない言葉と言葉の関係を構築し、新たな自分と向き合うこと)が、自らの句作の信念である講師の下、鑑賞と実作の基本を学びます。
日程 5/12・6/9・9/8・10/13・11/10 各土曜日・全5回
時間 10:30～12:00
定員 30人
受講料 1回1,000円

高野 ムツオ(たかの むつお)
1947年生まれ。俳人。市内の中学校教諭を務めながら句作を続け、79年に俳誌「小熊座」を主宰していた佐藤鬼房の門を叩く。その後同誌の編集に携わり、現在は主宰。句集に『雲雀の血』(ふらんす堂)、『蟲の王』(角川書店)、『萬の翅』(角川学芸出版、読売文学賞・小野市詩歌文学賞・蛇笏賞受賞)など。鬼房の詩魂を継承しつつ、定型が生み出す感動のダイナミズムを模索する俳人が、実作を手ほどきする。

川柳実作講座 締切 8/7 必着

講師 「川柳宮城野」主幹 雫石 隆子
川柳は発祥から260年を迎える伝統的な文芸です。今年は4回の講座を通して自分史を作ってみましょう。川柳は口語体で老若男女に親しまれていますが、そのテーマは人間であり、社会、森羅万象にあります。たった17音字の一行詩に思いを託し、自分の生い立ち、今、これからの吐いて自己を見つめる機会に致しましょう。
日程 9/15・10/13・11/10・12/8 各土曜日・全4回
時間 13:30～15:00
定員 30人
受講料 1回1,000円

雫石 隆子(しずくいし りゅうこ)
川柳作家。85年より「川柳宮城野」に入会。文芸川柳を中心に、社会・世相・時事を扱った作品のほか、東北の方言による創作にも力を入れる。句集に『樹下のまつり』(川柳宮城野社)。「川柳は人生の詩(うた)」であり、「誰もが気軽に自分の本音や思いを表現できる爽快感・心地良さ」がその魅力と語る。川柳を広く時代に継承したいという思いから、本講座の開催に至った。